

公明党議員団視察報告書

1 視察先・目的

・福岡県北九州市

ウーマンワークカフェ北九州について

・鹿児島県指宿市

指宿市サッカー・多目的グラウンド整備事業について

2 期間

令和2年1月28日～29日

視察報告書

日 時	令和2年1月28日（火）午後2時から午後3時45分まで
視 察 先	福岡県北九州市
視 察 項 目	ウーマンワークカフェ北九州について
視 察 者	公明党議員団（泉 清秀、大村 聡）
視 察 内 容	<p>ウーマンワークカフェ北九州は国・県・市が緊密に連携し、女性の「はたらく」をワンストップでトータルサポートしている。就職支援、就業継続・キャリアアップ支援、創業支援、子育てとの両立支援の4つの機能を果たしている。</p> <p>同カフェに設置されているマザーズハローワーク北九州（国）は、求人情報検索や職業相談等を実施し、子育て女性就職支援センター（県）では、求人開拓や就職斡旋などで就職を支援している。市では、ひとり親家庭等を対象にした就業支援をはじめ、女性管理職への就業継続・キャリアアップ支援、創業サポート、保育サービスコンシェルジュ等の子育て支援を実施している。</p> <p>カフェの開設により、新規利用者が約50パーセント、就職決定者が20パーセント増加した。</p> <p>市西部地区への支援やPRの強化が課題であり、市西部の区役所に就業支援員を配置し、相談支援やニーズの把握を行い、支援を強化するとともに、インスタグラム開設や商業施設、区役所等でのチラシ配布によりPR強化を図る。</p> <p>未就業女性が働きたい、働けると思う環境をつくること、未就業女性と企業がマッチングする機会を創出すること、女性が働き続けるとともに、キャリアを構築できる環境をつくることを今後の取り組みの視点としていく。</p>
所 感	<p>北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略にて『女性と若者の定着などにより社会動態をプラスにしていき、地方創生の「成功モデル都市」を目指す』と掲げているが、まさに「ウーマンワークカフェ北九州」は、「女性の“はたらく”を応援！」にふさわしい取り組みであった。</p> <p>現地で説明を聞くまでは、国や県のモデル地区の認定などを受け、あり余る予算の中での取り組みと思っていたが、北九州市長の選挙公約「女性の就業支援をする女性センターをつくる」が起点とのことであった。北九州市長の選挙公約と聞いて驚き、また、そのせいもあってか、説明いただいた課長の「女性の輝く社会推進に向けて」の姿勢、考え、意気込みに強い使命感を感じた。</p> <p>本市においても、女性・若者支援のための講演やセミナーなどは行われているが、企業とのマッチングなどの就業支援までは至っていないと認識している。北九州市におけるカフェの支援による就業決定者数が、4年間で3,314人にも達しているのは実に驚異である。支援に当たっては、紹介で終わるのでなく面接までスタッフが付き添うとのことで、フォローが行き渡っていると感じた。また、カフェのPRのため、スタッフがイベント会場や商業施設へ出向きチラシ配布、説明会を積極的に行っており、並々ならぬ意気込みを感じた。もち論、市の規模が本市とは全然違うが、「女性の“はたらく”を応援！」との強い思いを感じる視察となった。大いに参考となる取り組みで、吸収したエッセンスをぜひ、原課にも報告・紹介をしていきたいとの思いを強くした。</p>

視察報告書

日 時	令和2年1月29日(水) 午前9時30分～午後11時まで
視 察 先	鹿児島県指宿市
視 察 項 目	指宿市サッカー・多目的グラウンド整備事業について
視 察 者	公明党議員団(泉 清秀、大村 聡)
視 察 内 容	<p>全国的にも人口減少が進んでいる中、指宿市も例外ではなく、高齢化率も35パーセント台となった。この人口減少を食い止める1つの手段として、指宿市のサッカー・多目的グラウンドの整備が計画された。指宿市では、県内はもとより市内においてもサッカー人口が多く、市民へのアンケート調査等からもグラウンド建設に向けての後押しがあった。また、土地については土地開発公社から買い戻した広大な土地があり、計画も進めやすい状況にあった。指宿市への滞留人口や交流人口の増加が期待できることから事業への着手に至った。</p> <p>メイングラウンドは、プロ、アマ問わず利用できる天然芝とし、スタンドは屋根付きで820名収容可能。サブグラウンドは人工芝グラウンドで、ナイター設備を設置する。また、多目的グラウンドについては、サッカーはもちろん、多様な運動やレクリエーション等が行える「健幸広場」や、市民が交流できる「イベント広場」を設置した。また、周回道路は自由に駐車できるようにし、車からグラウンドへ直接出入りできるようにする。その他、アップ場、クラブハウスを兼ね備え、多目的グラウンドにふさわしい、地域とのかかわりを大切にすスポーツコミュニケーションが期待できる施設とした。</p> <p>令和2年度の完成を目指し、利用者数はサッカーを利用目的とする方を2万人～4万人想定し、収益は年間2億円と予想している。今後、多くの方に利用してもらうため、PR活動が重要となる。</p>
所 感	<p>指宿市では、サッカー好きな市民のバックアップもあり、既存の野球場、陸上競技場をリニューアルし、サッカー・多目的グラウンドを新たに建設する計画を進めている。市民の皆さんはもち論、市外、さらには県外からも利用者が集まるものと思われる。サッカーの競技を通して、より市民に親しまれる多目的グラウンドの建設は大変にすばらしい取り組みであると感じた。</p> <p>また、指定管理者制度ではなく、グラウンドキーパーのように専門性を要する部署については研修を実施し、直営方式で運営することとなっていた。これは、ランニングコストを抑えるにはよい点である。さらに、人口減少が問題となる中、子育て世帯を応援し、滞留人口を増やすことを目標に掲げていることにも大変共感した。</p> <p>本市においては、県サッカー協会の事業ではあるが、天然芝と人工芝のグラウンドの整備を計画している。また、将来的には南5区の埋め立て地に公園を建設する話もあることから、今回の指宿市のサッカー・多目的グラウンドの視察は大変参考になった。</p>